

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家(さくら棟)		
所在地	岩手県奥州市江刺区田原字大日195番地1		
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果市町村受理日	平成23年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371200387&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成22年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・私達は、一人一人のペースに寄り添って、「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」「その人らしい生活」が出来るような介護を提供します。 ・千貫石温泉のお湯を利用したお風呂は、気持ちが良いです。 ・月に一度、写真入りの近況報告(花だより)を、ご家族へお届けしています。 ・広い敷地、広いホールは、健康管理にバッチリです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>伊手川を望める小高い丘の自然豊かな土地をいかした2ユニット型のグループホームで認知症対応型通所介護事業を兼ね、同じ敷地に同一法人のデイサービスセンターもある。広いリビングと広大な庭が前面に広がり、庭の一角には100坪強の野菜畑もあり、日常のホームの生活支援に大いに役立っている。また、両ホームの風呂は、千貫石温泉のお湯を利用し、利用者に好評である。ホーム内では職員の意見・要望を取り入れ、フルに活かしてホームの改善につなげている。運営推進会議はその都度、テーマを設けて行い、限られた時間の中で効果的な話し合いが進められている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく」「笑顔で」「穏やかに」を理念とし、掲げている。 入居者、家族に対して、運営理念を見やすい場所に掲げ、掲示している。	理念は事務室・ホールに掲示しており、朝・夕のミーティング時には確認し合っている。この理念は、職員が話し合い作り上げたものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の方の(振興会長)提案により、田原地区の運動会等、地域行事への参加や、マラソンの応援等、地域との交流を図っている。	地域住民として、自治会に加入しているの、回覧板も廻ってくる。踊りの慰問をしていただいたり、地区の運動会やマラソンの応援や保育園や、保育園のクリスマス会、敬老会などにも参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護セミナーにおいて、利用者の家族とともに、介護の方法・対応を日常支援にしつつ、地域の暮らしに役立てたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部の方の目を通じて事業所の取り組み内容や、改善課題を話し合い、委員から意見を頂いています。	避難訓練、認知症研修会(地域交流を進めるためにも、地域の方々を対象に)などテーマを設定した会議をもち、運営推進委員と課題を共有しながら、より良いケアに向けての取り組みをしている。現在は、消防関係の方の出席もお願いしているし、駐在所にもオブザーバーとしての参加を呼びかける予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の研修会に参加し、出来るだけ介護に生かせるようにしている。	運営推進会議にも市の福祉課長が入り、情報交換はしている。市の包括支援センターは、グループホームは担当外ということで、日常的な相談は難しい状態であるが、市主催の研修会には参加している。可能な限り市の担当者との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、施錠しないようにしている。ホールの戸も解放し、気軽に庭に出られる。敷地や、建物が広いので「歩け歩け運動」や、天気の良い日は散歩をしたり畑の草取りなどをして	雨天の際には広いリビングで、天気の際は広大な庭を散歩し、外出等について特に拘束の必要性はない。拘束の事例もない。なるたけ晴れた日は屋外でのくつろぎを多く取れるようにしている。(敷地内の)ところどころにベンチを設置し、外出を支援することに心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者家族に「身体拘束しない」と話している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用いて説明している。敬老会等、家族が来所する際に再確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2カ月に一度開催。アンケートの実施。今年度より玄関に目安箱を設置し、家族が自由に意見を表せるようにした。	職員の提案による目安箱を設けているが、これまで1件利用されている。職員と家族とのコミュニケーションを深めること、グループホームの状況は広報「花だより」によって知らせる等、家族が気安く意見を出せる様に心がけている。面会時や推進会議に出席された際に意見、要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議による事業の企画立案やミーティング、勉強会を実施している。また目安箱を設置し、職員が自由に意見や提案ができる機会をつくった。	毎日の管理者と職員とのミーティングや主任会議や所長会議などの際にも意見、要望を出しやすい様な雰囲気づくりに努めている。目安箱の設置、共用の場でのソファの配置など、現場からの声を取り上げたものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	36条協定や就業規則の見直しを行い、勤務表に基づいた体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「グループホーム協会関係綴り」及び「復命書」で確認、グループホーム協会の定例会や、研修会へ職員が順番で参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会へ参加し、交流や、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅等へ訪問し、状況を把握しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問し、家族の思いなど、お話を聞かせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に活動をしている。 (食事を作る、レクの際の物作り等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調不良時の医療機関受診時は職員が同行するが、家族にも連絡し、対応していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会簿を作成し、記録している。	利用者の御主人が週2回程面会に来て、泊まってく方もある。家族の協力をいただいて利用者個人の対応を考えており、実現に努めている。グループとしての対応は、できるだけ、どんな場所、人を希望しているかを把握することに努め、実現するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動を行う中で自然に会話が生まれ、利用者同士が関わりあい、支えあう関係がうまれてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時などは、職員がお見舞いに行き、情報を聞き、家族の支援やフォローに当たっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング。ケアプランは、一人一人の状況に合わせた介護計画を立てている。	職員は各々の気づきノートにその都度記入し、その日の計画に入ってなくても皆で話し合い、計画作成員を中心に本人本位に検討し、対応することがある。利用者の生活史や日常の言動の中から、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者家族より、情報収集している。個人の生活歴を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日程を貼り出してはいるが、出来るだけ自由に過ごしていただいています。職員の押し付けではなく、入居者それぞれに合わせた生活リズムを支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎にケアプランを作成し、3か月毎にモニタリングを実施し、ケアを図っています。家族の意向を取り入れながら、状況により医師の意見も取り入れている。	職員の気づきを第一に、家族からも意向を聞き、アセスメントを含め、全員でモニタリング、カンファレンスを行い、反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートの利用や入居者ごとに活動チェック記録をつけ、畑作業、掃除、食器拭き、生活の中で、趣味や、得意なことを楽しむ。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスとの連携や、認知症対応型通所介護の実施の他、家族が希望した場合は、入居者と一緒に宿泊していただきます。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①移動図書館の利用 ②避難訓練時の消防職員との訓練 ③ボランティアの受け入れ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診がなされている。	協力医が全員のかかりつけ医となっている。協力医の受診対応は、ホームで対応し、眼科や特別な病気は家族が対応している。ホームでの対応についての受診対応費用等は頂いていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、常に連絡が取れる状態になっている。併設されているデイサービスの看護師に相談することも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した終末期の在り方・事業所の対応について、段階ごとに家族、かかりつけ医等、ケア関係者と意向確認しながら対応方針の共有を図っている。	入居契約時に重度化指針を説明し、同意を得ている。段階ごとに、家族、医療機関、ケア関係者と協議して計画を立て、随時本人や、家族との意志確認をしながら取り組む。現在までのところ看取り経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時、事故発生時に備えて、全職員が看護師から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回(昼間・夜間想定)の避難訓練の実施。 ・具体的なマニュアルを掲示している。	避難訓練は年2回、消防署の立会いで実施されている。マニュアルも整備され、連絡体制もできている。	非常出口は広くとれるが、出口の段差があることにより、車イスや歩行に心配な面がある。運営推進会議などや回覧などによる地域への更なる協力呼びかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の掛け方ひとつで、入居者さんの反応が違います。職員同士で情報交換したり、確認し合いながら対応しています。命令口調、子供口調のような言葉は使用せず、分かりやすい言葉で、ゆっくりとした口調で声掛けしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、どんな些細なことでも入居者に確認し、自分で決定するように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の都合でやむを得ない場合、ホーム側の都合に合わせていただく場合もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。お化粧品をしたり。理美容院を利用されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日、入居者と職員と一緒に買い物をする日を設け、入居者が食べたい物を購入し、その日の夜の食事としています。出来る方には、お手伝いをさせていただきます。	週末に利用者と一緒に買い物をし、利用者が食べたい物を購入し、好みの夕食づくりをしている。調理や片付けまで一連の作業ができる方が多くみられた。テーブルには職員も一緒になり、楽しい食事支援がなされている。利用者の生活史や日常の言動の中から、思いや意向の把握に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に関しては、一日にどれくらい水分を確保できているか表を作成しそれをもとに支援しています。入居者の身体状況に応じた分量を提供しています。毎日の献立は、栄養士が作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科支援事業の指導により、口腔体操、口腔ケア、義歯の手入れを行っています。毎食前に口腔体操を行っています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人の排泄サイクルを把握し、排泄表に基づきトイレ誘導や、少し離れたところで見守り介助の場合もある。	排泄パターンを把握し、それに基づきトイレ誘導や見守り介助をしているが、なるべく自立を促し、自発的にトイレ通いをするようきっかけ作り(タイミングを見た声かけ等)を目標に、見守り介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく、身体を動かすよう努めています。(レクリエーション、食後の下膳等)水分(牛乳・コーヒー・お茶等)を色々な形で補給していただいています。排泄表活用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴頻度は入居者の希望に沿いながら、曜日や時間帯は職員側で決めたかたちになっている。	入浴頻度は利用者の希望に沿いながら、入浴拒否の利用者には職員と一緒に入ったり、清拭、足浴等をして清潔保持の支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせて、お昼寝も、必ず居室ではなく、ソファに休んでいただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認できるよう、入居者のチャートに処方薬の説明書を綴っている。服薬確認表を活用し、症状の変化があれば記録を取り、看護師に連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意とする「日々の役割」を設けています。職員が声を掛けなくても、自分の仕事として、進んで行っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出掛け、散歩やドライブ(花見、つつじ狩り)でおやつを食べたりしています。お盆やお彼岸は、お墓参りのため、家族と外出される方もいます。	帰宅願望の方は、一時的に戸外に出て広い庭を散歩したり、草とりをしたりして気を紛らわせ、天気の良い日はドライブ、花見、買い物などの外出をしている。盆、正月などは家族と外出される方がいる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム花の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として、ホームが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	デイサービスの公衆電話を利用したり、ホームからの電話は職員が取り次いでかけたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境に恵まれた場所に建物があり、天窓を取り入れ、風通しのよい状況作りをしています。広いスペースが取られているので、レクリエーション活動等、有効に利用しています。	両ユニットとも大変広いリビングがあり、ソファ、リハビリ器具とテーブルが置かれ、更に広いスペースで輪投げや歩け歩け運動(民謡を伴奏に)やフットサルなど、いろんなレクリエーション活動を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士が集まる場所、一人で景色を見たり、邪魔をされたくない方の場所は、工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、日用品、思い出の品等、持ち込み可能にしています。	部屋のレイアウトは、利用者に任せており、それぞれ写真、時計、整理タンス等が持ち込まれ、各自思い思いに工夫され、整理整頓がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いスペースがあるので、台所付近にて食器拭きや、食事作りのお手伝いをさせていただきます。ホール中央ではレクで楽しむことができます。活動チェック表を作成し、活用しています。		